# 水環境マネジメント検討会を踏まえた流総計画の再構築

国土交通省

資料3

## 流総計画の再構築のポイント

**環境基準の達成**

**社会要請に則した能動的な整備計画**

### 水環境マネジメント検討会

| 課題 | 流域全体で取り組むべき方向性 | 早期に着手すべき流総計画の再構築に係る事項 |
|---|---|---|
| ○公共用水域の水質保全 | ○下水道と他の流域関係者が一体となって、環境教育や水環境指標のあり方の検討を含め、水環境の保全・改善に向けた取り組みの推進 | ○目標像の取り込み<br>○合理的負荷配分 |
| ○豊かな海の再生、<br>生物多様性の保全 | ○関係主体が連携し、研究・実証等を含めた改善の積み上げによる豊かな海の再生・生物多様性の保全 | ○季節別・地域別放流水質の柔軟な設定<br>○試行とモニタリングによる知見の集積 |
| ○人口減少、<br>財政逼迫への対応 | ○人口動向、財政状況等の社会情勢に十分に配慮した対応 | ○マネジメントサイクルの確立<br>○流総計画の機動性・柔軟性の確保<br>○流総計画と経営計画の調整 |
| ○循環型社会、<br>低炭素社会の実現 | ○社会システムにおける資源・エネルギーの制約条件下に対応する省エネ、創エネ、資源利用の推進 | ○エネルギーに配慮した処理レベルの設定<br>○資源・エネルギーのポテンシャルの把握<br>○流域全体でのエネルギー削減 |
| | | ○アダプティブマネジメント<br>○関係機関との連携<br>○技術開発等への支援 |

### 流総計画再構築のポイント

(1)目的の多様化
(エネルギー削減、生物多様性の保全等)
・関係主体の連携による「目標像」
・水域毎の事業の優先順位等
・エネルギーポテンシャルの把握

(2)エネルギーの視点からの合理的負荷配分
・消費エネルギー削減の考え方導入

(3)Long－term、Mid－term流総
(長期整備目標と中期整備目標)

(4)削減負荷量による評価の重点化
・「中期的な目標削減負荷量」を設定し、目標年度時点の改善状況を評価

(5)柔軟性を持たせた計画の導入
・長期目標削減負荷量、将来フレーム等に幅を持たせる　等

(6)流総計画の見える化

(7)流総計画の策定作業の簡略化
・調査事項の見直し
・関係機関との協議簡素化

### 流総指針への反映

赤字:追加、青字:簡素化、緑字:必要に応じて検討
●:特に関連の高い再構築のポイント

**1. 総則**

**2. 計画の策定**
2-1. 計画の目標
2-2. 調査内容
2-3. 調査のプロセス
2-4. 計画の変更
2-5. 計画書の内容等

●環境基準以外に、地先別、季節別目標も設定可。
○エネルギーの削減目標も設定可。
○「Long-term流総」と「Mid-term流総」の整備計画年次と目標の設定。
●削減負荷量による評価の実施について

●策定作業の簡略化を図る計画変更の見直し基準を記載。

●流総計画策定時に内容をわかりやすく公表するため、各流総計画の見える化を行う。

**3. Long-term流総の策定**
3-1. 汚濁負荷量の現況と見通し
3-2. 汚濁解析
3-3. 計画下水量
3-4. 許容負荷量、削減負荷量
3-5. 下水道の有する資源の利活用の見通し
3-6. 整備優先順位

●将来フレーム、許容負荷量に幅を持たせ、幅を持った削減負荷量設定も可能とし、柔軟性のある計画とする。
○基礎調査の簡略化により策定時間の短縮を図る。
○季節別汚濁負荷量の算定方法について説明

●消費エネルギーの観点から効率的な下水処理レベルの設定も可能。
○エネルギー最小化の観点から処理レベルに差を持たせることも可能。
●許容負荷量はシミュレーションの幅や、それ以外の手法で設定し、幅を持った削減負荷量の設定も可能。

●有効利用の導入・促進を目指し、下水道のエネルギーポテンシャルを把握し、公表する。

○エネルギー面からの効率的な整備優先順位を検討

**4. Mid-term流総の策定**
4-1. 現Mid-term流総の評価
4-2. 次期Mid-term流総の削減負荷量
4-3. 下水道の計画処理水質、処理方式

●「中期的な削減負荷量」に対する達成状況を評価

●評価結果を受け「中期的な削減負荷量の目標」設定
○「Long-term流総」の幅の中で目標を設定

●季節別の処理水質や運転方法を設定。